

飼料用米品種「ホシアオバ」の低コスト高収量高品質栽培法

農業研究部・水田農業グループ

1. 研究の背景

飼料用米は生産物価格が安いことから、経費の節減や収穫量の向上により収益の向上を図る必要がある。しかし、これまで本県内で飼料用米品種の栽培事例は少なく、新品種「ホシアオバ」の低コスト・高収量を実現しうる栽培法は確立していない。

2. 研究成果の内容・普及のポイント

飼料用米品種「ホシアオバ」の栽培法を確立した。

[窒素施用法]

- ・ 追肥の時期が遅いほどタンパク質含有率が向上。
- ・ 追肥を2回行う分施で最も多収。

[栽植密度]

- ・ 73~40株/坪の範囲では、50株/坪がやや多収。
- ・ 玄米タンパク質含有率は同程度。
- ・ 疎植は成熟期がやや遅延。

[コスト比較]

- ・ 50株/坪は73株/坪に比べ、育苗に必要な費用は約18%削減。

表1 疎植による育苗費および農薬費削減効果の試算

	73株/坪 (比較)	60株/坪	50株/坪	40株/坪
育苗費				
育苗培土	2,440	2,074	1,708	1,342
育苗箱	480	408	336	264
種子	1,665	1,415	1,166	916
太陽シート	1,000	850	700	550
小計	5,585	4,747	3,910	3,072
農薬費				
苗箱処理剤	4,051	3,443	2,836	2,228
合計	9,636	8,191	6,745	5,300
(比較との比)	-	(85)	(82)	(79)

注) 数値はいずれも場内試験で用いた資材の価格をもとに試算を行い、円/10aを表す。

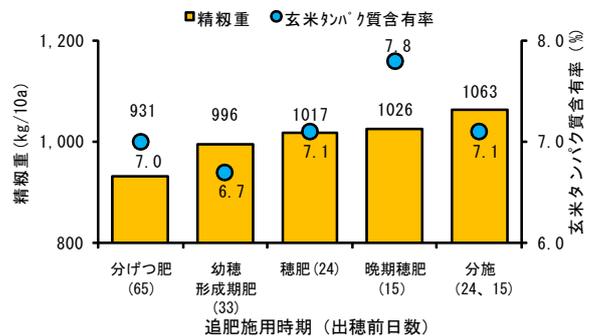


図1 追肥施用時期と収量および玄米タンパク質含有率との関係 (2009年高標高地)

注) 窒素施用量(kg/10a) : 基肥6、追肥5、ただし、分施区は穂肥3、晩期穂肥2。

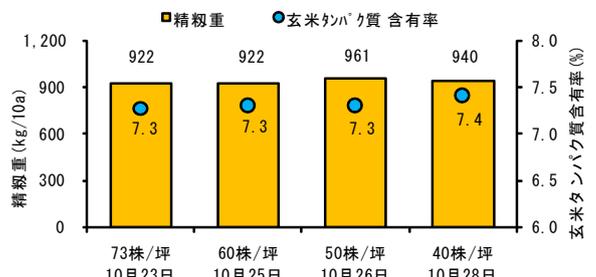


図2 栽植密度別にみた収量および玄米タンパク質含有率 (2010、2011年平均・平坦地)

注) 横軸項目の日付は、成熟期を示す(移植期6月23日)。

窒素施用量(kg/10a)は、基肥6 - 穂肥3 - 晩期穂肥4とし、50株/坪程度の栽植密度とする。

3. 期待される効果

- ・ 飼料用米の生産安定に寄与できる。
- ・ 実需者の求める高品質な飼料用米を生産できる。

4. 担当機関連絡先

農業研究部 水田農業グループ 作物栽培チーム

TEL : 0978-37-1160

住所 : 宇佐市大字北宇佐 65